

第8回資産債務改革の実行等に関する専門調査会

日 時 平成19年5月16日(水) 15:00~15:11

場 所 合同庁舎4号館 共用第1特別会議室

(八代会長) 本日は2つの会合ということになり、前半は専門調査会として、5月8日の経済財政諮問会議に提出された有識者議員ペーパー等について報告する。後半を金融資産に関するワーキンググループの第1回会合とする。

お手元の資料で、資料1と資料2を見ていただきたい。

順序が逆になるが、最初に資料2の方から、5月8日の諮問会議に、私の方から資産債務改革の実行等に関する専門調査会について簡単な報告をした。

報告内容については、ここに書いてあるように、関係省庁や民間有識者からのヒアリング及び審議を行い、これらも踏まえて、財務大臣から3月27日に経済財政諮問会議において「工程表」というものが提出されたということ。

それと、「工程表」が提出されたことによって、いよいよ国の資産債務改革が実施の段階に入ってきたので、5月中に専門調査会の下に実物資産と金融資産に関する2つのワーキンググループを設置する。

それから、並行して、独立行政法人や国立大学法人、地方公共団体等の資産債務改革や特別会計改革についての議論を更に掘り下げていくという報告をした。

それと、諮問会議の民間有識者議員の資料として資料1を出した。

まず、「資産債務改革の意義」ということで、非効率な業務を明確化することと、政府が抱える資産・債務の両面でのリスクを小さくすること、資産の有効活用、関連する公会計改革とか特別会計改革を進め、相乗効果を得ることの4点を挙げた。「国の資産・債務改革」ということでは、売却や有効利用により国有資産が最大限に生かされることが重要であるという、当然のことを書いてあるだけである。金融資産については、財政融資残高を縮減するという、既存資産の売却や証券化を加速するという、財投融資資金の証券化についても、民間の知見を踏まえて、コストを適正に評価するとともに、その最小化等を図りつつ、証券化の規模を拡大するということを述べている。2枚目であるが、実物資産についても、有効活用という形で、単に庁舎等の集約化を進めるだけではなく、類型ごとの処分方針を策定するとともに、民間提案を生かす仕組みを具体化してはどうかということなどを述べている。あとは、独立行政法人等の資産債務改革、自治体の資産債務改革、それから、特別会計の改革という順序で御説明した。これらについて、財務大臣を中心とした質疑が若干あった。

あくまでも改革のチェック・フォローの一環として、民間提案を生かす仕組みの具体化を進めてきたということで、今後とも引続き実行段階のチェック・フォローをやっていくということを私の方から申し上げる。こういう形で、とりあえず報告をしたわけだが、これについて、もし質問やコメント等があればお願いしたい。

それでは、諮問会議への報告等に関することはここまでにして、今後の運営についてお話しする。

まず、この諮問会議の民間議員ペーパーにも書いてあるようなワーキンググループの設置ということだが、実物資産に関するワーキンググループと、金融資産に関するワーキンググループの2つを設置するわけだが、このメンバーとして、資料3と資料4を見ていただきたい。

事実上、この専門調査会のメンバーとかなり重なっているが、これに数人の方に加わっていただいている。メンバーは決してこれで固定するわけではなく、更に追加をお願いする可能性もある。

まず、実物資産に関するワーキンググループについては、資料3にあるような専門調査会の委員に加えて、フロンティア・マネジメント株式会社の大西正一郎代表取締役にご参加いただきたい。これは以前にヒアリングした方である。

それから、金融資産に関するワーキンググループについても、資料4にあるような専門調査会委員に加えて、株式会社経営共創基盤の村岡隆史取締役マネージングディレクターにご参加いただきたい。

村岡委員は、三和銀行にてプロジェクトファイナンス業務、M&A業務に従事し、通信事業の立ち上げ支援に関わられたとともに、モルガン・スタンレー証券投資銀行部門で通信業界等を担当されていた。その後、産業再生機構に参画され、現在は富山委員が代表取締役を務めている株式会社経営共創基盤のマネージングディレクターとして再生支援・経営支援等に取り組まれている。

本日は、第1回の金融資産に関するワーキンググループをこの後に開催するというので、村岡委員にも早速おいでいただいた。一言ごあいさついただきたい。

(村岡委員) 紹介いただいたとおりだが、三和銀行、モルガン・スタンレーにおいて、投資銀行業務全般、例えば、M&Aのアドバイザーや、あるいは株・債券の引き受け、それから、プロジェクトファイナンスを含めた、ストラクチャードファイナンスと言われる業務に関わってきた。これは証券化なども含まれるわけだが、こうした仕事を全部で十年程度やっていた。その後、産業再生機構に約4年おり、三井鉱山、ミサワ、あるいはダイエーといった会社の再生支援を担当させていただいた。

恐らく、こちらのメンバーの中でも、比較的市場に近い人間の一人ではないかと思うので、市場からの目線でいろいろ意見を述べさせていただきたいと思う。よろしく願いいたします。

(八代会長) それでは、これで専門調査会を終了することとする。